

初めての介護保険証と ケアマネさんの優しさ



執筆 ▶ 葉山 靖明 ● (株)ケアプラネット
「デイサービスけやき通り」代表取締役

今回は、初心に帰って、初めて介護保険被保険者証（以下、介護保険証）をもらったときの心境について書こうと思います。

そのときの心境を正直に文字として書くと、保険料を支払われている方には、申し訳ない表現もあるかもしれませんが、なるべく、当事者の本当の心境、本音を伝えたいので、ご理解のほどお願い致します。



もらったときの 正直な気持ち

10年前、41歳のとき、自分の名前が入った、その「介護保険証」というものを手にしました。黄色くて、地味な感じで、健康保険証の「青いイメージとは、随分と違うなあ…」と感じたのを覚えています。私は海外への一人旅が好きだったので、日本国の赤いパスポートを手に持っただけで、まるで国際空港の出発口にいるような“意気揚々”とした気分になるのですが、この黄色い介護保険証を持つと“意気消沈”といった、全く逆のような……。

健康保険証が「いつ病気になっても大丈夫！」という安心感と医療を受ける権利（保険）を手に入れたような気持ちになるのに対して、介護保険証は

「これで俺の病気が長く、障害で、介護が必要なほど、俺の体は衰えたんだな…」と私を落ち込んだ気分させました。しかも、「人さまにずっと介護を受けるんだなあ…」と心の落胆と人生の負の義務を背負ったような感覚でした。介護保険も保険であるから、支援を受ける権利の確定なのでしょうが、健康保険とは真逆でした。

このことについて、要介護友達と話し合ったことはありませんが、たぶん、皆、似たり寄ったりなのでしょう。余談ですが、保険の前につく言葉も「健康」vs「介護」であり、語感としてもとても違いますよね……。

介護保険料を支払っておられる皆さま方には本当に申し訳ないほどに、「嫌な気分」でした。

片まひ者が病院に通院できなかった、あの「リハビリ難民」と言われた2006年であったので、救済されたという幸運はあったのですが、数値で表すと、つらさ5：悲しさ3：ありがたみ2くらいであったと記憶しています。

当然ながら、家族の感じ方は、「レスパイトの安心感」「老後が30年も早く来た悲しさ」そして、2号適用の「経済的生活の見通しが立たないことの確定」もあるはずで、それは単なるアンケート調査等では浮かび上がってこないほど、複雑だったでしょう。

葉山 靖明 はやま やすあき

1965年福岡県生まれの50歳。専門学校で法人税法及び簿記論の講師を務めていた2006年、40歳のときに左脳の脳内出血発症し右片まひに。翌年それまでの職場を辞して(株)ケアプラネット設立。現在は、デイサービス経営のかたわら講義・講演活動を継続中。社会福祉法人「夢のみずうみ村」役員。人間科学修士

私の介護保険証。
“有難きもあり悲し
きもあり”という心
境でした



お世話される役割 を心に負うということ

「病気になるということは、単に心身の不調を経験することではない。それは、病人という社会的地位につくことでもある」という医療社会学者のタルコット・パーソンズの「病人役割」の学説に、私はとても納得しています。

読者の皆さんも、①「悪いことが起こったときに人からジロジロ見られること」が好きな人はいないと思います。さらに、②「言葉には出さないけど、他人から“かわいそうに”とか“大変やね”と思われること」も好きな人は、なかなかいないと思います。たぶん、嫌でしょう。

介護保険証を持つということは、自動的に、社会的に①②の状態になるということ、そして、そう見られる義務を負うということだと思います。私の家の前にデイサービスや社協の車が停まったり、私が杖をついて散歩するということは、本人の出来事でもあり、社会の

出来事でもあり、さらにそれらの社会的出来事の当事者として「心の負」として受けとめる苦しさ、つらさ、やるせなさ、声なき声、そのものだと思います。それらを負う“義務”の発生です。

そして、それは本人にも表現しようがなく、訴える手だても知らず、細かな衝突が起こると「激怒」となって吐き出され、現実では悲しいことに「症状」として取り扱われたりもします。



ケアマネさんのフラットな感覚に救われた

しかし、日本のケアマネさんはとてもすばらしく、私のケアマネさんも、いわば「かわいそうに感」や「社会的な痛み見舞い感」(造語です)や「激怒の素」を全く出さずに、私と話し、接してくれました。本当にありがたいことです。



時に共感をしてくださり、時にフラットな感覚を持ち合わせることができる私のケアマネさんは、日本の伝統的な心配りや気遣い、自然にあるがままの心と心で話していただきました。

英語の「マネジメント」という言葉の範疇を越えるかのような、日本人としての優しさをもって接してくださる日本のケアマネさん。私が初めて介護保険証を手にしたときのつらさも、ケアマネさんの優しさに救ってもらったのでしょう。

今、あらためて心から感謝いたします。

今月の私



最近では女性スタッフも山に入り、孟宗竹を切り出すというから、スタッフの成長も頼もしいですね(^^)

今年で8年目の8回目。

「葉山さんのデイサービスの初正月を大きな門松で祝っちゃる！」と言われ、うれしいやら、驚くやらだったのが8年前。高さ1・8メートルもの門松を皆で作り、祝っていただきました。それから毎年、Yさんは門松を作ってくださいます。今年で8年目の8回目。

「8年目の門松」物語

私の運営するデイサービスの駐車場の両側に、この門松。孟宗竹、松、梅、南天、玉砂利、御幣など全部利用者とスタッフで作作り！その中心となってくださっているのがYさんです。

2008年にオープンして数人目に利用された方。担当者会議で私が「うちのデイサービスでは、何でもしたいことができますよ」とワン・ハンドのYさんに伝えたら、